



有給休暇の有効期限
は2年間です。

初版 平成30年5月23日

有給休暇の消滅時効

更新日 2018.05.17 作成日 2018.05.17

(1). 有給休暇の消滅時効

有給休暇の有効期限は発生日より2年間と定められています。

労働基準法第155条

この法律の規定による賃金(退職金を除く)、災害補償その他の請求権は2年間、この法律の規定による退職手当の請求権は5年間行わない場合において、時効によって消滅する。

例えば、2015年10月1日に入社したAさんは、6ヶ月後の2016年4月1日に10日の有給休暇が、付与されます。そして、1年後の2017年4月1日には、11日が付与されます。

つまり2017年4月1日には10日+11日=21日分の有給休暇が残っています。

さらに有給休暇の消化をせずに1年経過して2018年4月1日になると、12日が付与されます。が、有給休暇の有効期限が2年の為、最初の10日間が消滅してしまいますので11日+12日=23日が、有給休暇の残となります。

[illegible]

(2). 有給休暇の消化の順番

有給休暇の消化の順番については、労働基準法では決まりはありません。

民法488条第1項

債務を弁済しても、すべての債務を消滅させるのに足りない場合は、債務を弁済する者は、給付の時に、その弁済を充当すべき債務を指定することができる。

つまり有給休暇が全部無ならず、且つ付与分・繰越分が残っている場合には、使用者は、有給休暇を与える時に、付与分から消化していくか繰越分から消化していくかを指定する事ができ、どちらから消化するかを定めていない場合は会社が指定する事ができます。

但し、その場合は、就業規則等で明示しなければなりません。

使用者が指定をしないときは、労働者は繰越分から消化することを指定できます。

使用者も労働者も指定しないときは、使用者にとって有利な、本年度分からの消化となります。

例：

2017年4月1日から2018年3月31日までの間(有給休暇が21日残っている)で、5日間の有給休暇を取得した場合、繰越の有給日数は何日となるのでしょうか？

有給休暇の消滅時効

更新日 2018.05.17 作成日 2018.05.17

① 繰越分から消化

諸葛孔明さん、正社員、週5日勤務

年月	2015(H27)												2016(H28)												2017(H29)												2018(H30)			
	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4						
経過年数																																								
<div><繰越分から消化></div>																																								
前月有給残				0	0	0	0	0	0	0	0	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	23					
当月消化				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
当月有給残				0	0	0	0	0	0	0	0	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	23					

2017年6月に5日の有給を消化した場合は、繰越分(0.5年目の有給付与分)10日から5日間が控除された上で、その残り5日分は時効により消滅します。

よって付与分(1.5年目の有給付与分)11日は、そのまま繰り越されますので、2.5年目の有給付与分12日を加算して、当月有給残は23日となります。

② 付与分から消化

諸葛孔明さん、正社員、週5日勤務

年月	2015(H27)												2016(H28)												2017(H29)												2018(H30)											
	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4														
経過年数																																																
< 付与分から消化 >																																																
前月有給残				0	0	0	0	0	0	0	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	18													
当月消化				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0												
当月有給残				0	0	0	0	0	0	0	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	18												

2017年6月に5日の有給を消化した場合は、先に付与分(1.5年目の有給付与分)11日から控除される為、まず繰越分(0.5年目の有給付与分)の10日が時効により消滅します。
それから付与分(1.5年目の有給付与分)11日から5日間が控除され、残り6日と2.5年目の有給付与分12日を加算して、当月有給残は、18日となります。

有給休暇管理表は、「繰越分から消化」を採用しています。

有給休暇の消滅時効

更新日 2018.05.17 作成日 2018.05.17

① 事例1

与謝野晶子さん、パートタイマー、週4日勤務

年月	2015(H27)												2016(H28)												2017(H29)												2018(H30)			
	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4						
経過年数																																								
	<繰越分から消化>																																							
	前月有給残					7	7	7	7	7	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15						
	当月消化					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
	当月有給残					7	7	7	7	7	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15					

<有給付与履歴>

H27.07.01 入社

H27.11.01 0.5年目の有給付与(7日) : 6ヶ月未経過だが、会社異動にて早めに付与

H28.04.01 1.5年目の有給付与(8日)

毎年の更新を4月に統一する為、1.5年経過せずとも付与。よって15日が有休残となる。

H28.12 1日有給消化

H29.02 2日有給消化

H29.04.01 2.5年目の有給付与(9日)

繰越分(0.5年目の)7日より有給消化(3日)を控除して、残り4日は時効により消滅する為、1.5年目の8日と、2.5年目の9日を加算した17日が有休残となる。

H29.04 1日有給消化

H29.06 1日有給消化

H29.09 1日有給消化

H29.10 1日有給消化

H29.11 3日有給消化

H29.12 1日有給消化

8日

H30.01 1日有給消化

H30.02 1日有給消化

H30.03 2日有給消化

4日

H30.04.01 3.5年目の有給付与(10日)

繰越分(1.5年目の)8日より有給休暇(8日)を控除して、さらに2.5年目の9日より消化分の残り4日を控除して、残りの5日と、3.5年目の10日を加算した15日が有休残となる。

有給休暇の消滅時効

更新日 2018.05.17 作成日 2018.05.17

② 事例2

15131樋口一葉さん、パートタイマー、週2日勤務

年月	2015(H27)				2016(H28)												2017(H29)												2018(H30)					
	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
経過年数																																		
<繰越分から消化>																																		
前月有給残										3	3	3	3	3	3	3	3	1	1	1	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	8	
当月消化										0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
当月有給残										3	3	3	3	3	3	3	1	1	1	1	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	8	

<有給付与履歴>

H27.11.01入社

H28.05.010.5年目の有給付与(3日) : 6ヶ月経過して3日の有給を付与。

H28.12 2日有給消化

H29.04.011.5年目の有給付与(4日)

毎年の更新を4月に統一する為、1.5年経過せずとも付与。よって5日が有休残となる。

H30.04.012.5年目の有給付与(4日)

繰越分(0.5年目の)3日より有給消化(2日)を控除して、残り1日は時効により消滅する為、1.5年目の4日と、2.5年目の4日を加算した8日が有休残となる。

有給休暇の消滅時効

更新日 2018.05.17 作成日 2018.05.17

③ 事例3

15101小野小町さん、パートタイマー、週5日勤務

年月	2015(H27)												2016(H28)												2017(H29)												2018(H30)			
	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4						
経過年数	←6ヶ月				→10日																																			
					←1年6ヶ月				→11日																															
									←2年6ヶ月																												→12日			
													←3年6ヶ月																								→14日			
<繰越分から消化>																																								
前月有給残					10	9	9	8	8	19	19	19	18	18	17	16	16	16	16	13	13	23	22	20	19	17	16	15	14	12	12	10	9	22						
当月消化					1	0	1	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	3	0	1	1	2	1	2	1	1	1	2	0	2	1	1	1						
当月有給残					9	9	8	8	8	19	19	18	18	17	16	16	16	16	13	13	12	22	20	19	17	16	15	14	12	12	10	9	8	20						

<有給付与履歴>

H27.07.01入社

H27.11.010.5年目の有給付与(10日)：6ヶ月未経過だが、会社異動にて早めに付与

H28.11 1日有給消化

H29.01 1日有給消化

H28.04.011.5年目の有給付与(11日)

毎年の更新を4月に統一する為、1.5年経過せずとも付与。よって8+11で19日が有休残となる。

H28.06 1日有給消化

H29.01 3日有給消化

H28.08 1日有給消化

H29.03 1日有給消化

H28.09 1日有給消化

H29.04.012.5年目の有給付与(12日)

繰越分(0.5年目の)10日より有給消化(2日+7日)を控除して、残り1日は時効により消滅。よって1.5年目の11日と2.5年目の12日を加算した23日が有休残となる。

H29.04 1日有給消化

H30.01 2日有給消化

H29.05 2日有給消化

H30.02 1日有給消化

H29.06 1日有給消化

H30.03 1日有給消化

H29.07 2日有給消化

H29.08 1日有給消化

H29.09 1日有給消化

H29.10 1日有給消化

H29.11 2日有給消化

11日

4日

H30.04.013.5年目の有給付与(14日)

繰越分(1.5年目の)11日より有給消化(11日)を控除して、さらに2.5年目の付与分(12日)より消化分(4日)を控除した残り8日と、3.5年目の14日を加算した22日が有休残となる。

有給休暇の消滅時効

更新日 2018.05.17 作成日 2018.05.17

④ 事例4

15023清少納言さん、正社員、週5日勤務

[illegible]

H27.09.01入社

H28.03.01 0.5年目の有休付与(10日)・・・6ヶ月経過したので、10日を付与

H28.04.01 1.5年目の有給付与(11日)

毎年の更新を4月に統一する為、1.5年経過せずとも付与。よって21日が有休残となる。

H29.04.01 2.5年目の有給付与(12日)

0.5年目の10日は時効により消滅する為、1.5年目の11日と、2.5年目の12日を加算した23日が有休残となる。

H29.07 1日有給消化

H30.04.01 3.5年目の有給付与(14日)

繰越分(1.5年目の)11日より有給消化(1日)を控除して、残り10日は時効により消滅。

よって2.5年目の12日と、3.5年目の14日を加算した26日が有休残となる。